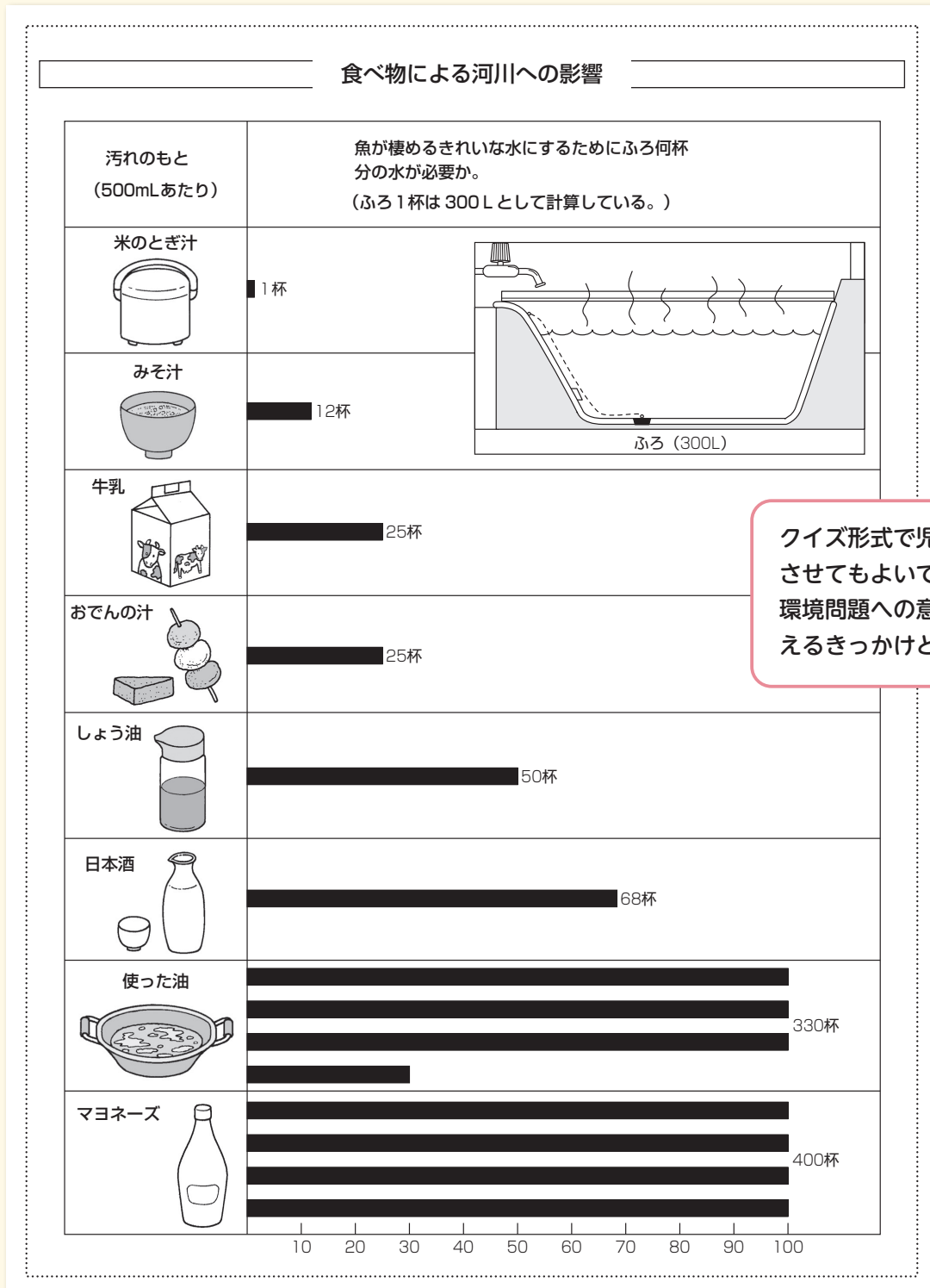


食べ物による河川への影響

食べ物による河川への影響

食べ物の残りなどを川に流した場合、魚が棲めるきれいな水にするために、ふろ何倍分の水が必要であるかをまとめています。汚れのもとになる食べものの量はそれぞれ500mLとし、ふろ1杯を300Lとして計算しています。



クイズ形式で児童に考えさせてもよいでしょう。環境問題への意識が芽生えるきっかけとなります。



水の循環・調べ学習を行う際のポイント

水の循環

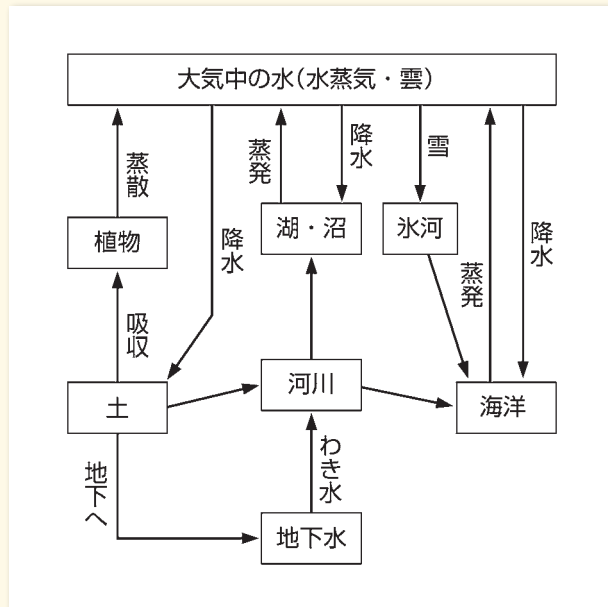
地球における水の循環は、右の図のように整理することができます。

水は太陽エネルギーと重力によって動きます。地表の約70%は海なので、地球が受け取った太陽エネルギーのかなりの部分は海水に吸収され、水温を高めたり、水が蒸発するときの気化熱に使われます。

水蒸気は大気の流れによって運ばれ、雨や雪などの降水になります。高いところに降った雨や雪は、川などを移動してやがて海に戻ります。

降水量は、地球上の場所や時期によって異なりますが、平均すると1年間に850~1000mm程度といわれています。

一方、大気中に含まれている水蒸気量は約 1.3×10^{16} kgといわれていて、これがすべて雨になって地上に降ってきたとすると、約25mmの降水量にあたります。このことから考えると、地球の大気中のすべての水蒸気は、1年間に40回ほど入れかわっている計算になります。



調べ学習を行う際のポイント

地域の環境について調べたいときは、まず都道府県庁や市町村役場の環境問題を扱う窓口にお問い合わせるとよいでしょう。

ウェブサイトを使用する際には、事前に教師が適切なサイトを探しておいて、それを紹介するようにしましょう。すべてを児童に任せると、サイトを探すだけでかなりの時間を費やしてしまい、結果や考察を書くことができないという事態が想定されます。

そのような点を考慮すると、本を情報源にするほうがふさわしいと考えられます。地域の図書館なども利用し、限られた時間で納得のできる調べ学習ができる環境を整えましょう。